

市 民 の 声



穎娃町牧之内
里中 勝

自治加入促進で 自治会の活性化を

私の住む自治会は近年新規居住者が数世帯増えました。

昨年の十五夜には珍しい顔ぶれの多さに心ときめくものを感じました。

十五夜には事前に相撲を取る土俵を作り、綱引きをする大きな綱を稲わらで練り準備します。50年前は青年団が綱練りの主役でした。今は60歳までの青壮年部と小・中学生が男女とも綱練りに加わります。少子高齢化は男子の独壇場であった行事がすっかり男女共同運

営の行事に生まれ変わりました。近隣の自治会では人口減少などで伝統行事の十五夜ができなくなっているところもあります。自治会機能の維持、活性化が今後の大きな課題の一つだと思います。

市は「移住・定住促進対策補助金制度」を拡充され、出身自治会内への優遇措置や自治会加入を条件とされたことに自治会活性化への深い思いを感じます。自治会は行政の手の届かない「ごみ収集所の網かごの設置・管理」「防犯灯の設置・電灯料の負担」「市道・自治会道路の維持管理作業」など多くのことに取り組みます。議会においても転入する世帯と定住者が知恵を出し合う自治会とするため、自治会加入促進などの一層の活性化への対応に期待いたします。



川辺町上山田
桑畑 泰正

ソフト面にも配慮して

合併して1年が過ぎるころともなると、ちらほら不平不満の声が聞こえてきた。世の常で「すべての人が満足」することは至難の業で不可能だと思ふ。

ハードな部分は、緻密に積み上げられていても、そこにソフト部分が欠けているのではなからうかと思ふのは私だけか。たとえば、今、地域バスについて、停留所の要望調査などがある。出来るだけ要望を吸い上げて停留所を設定して地域バスを走らす。後はバス業者に委託して実施する。これではソフト面が不

十分だと思ふ。

本来この計画は、市政の中でどのような位置づけでスタートしようとしているのか、ただ単に車に乗れない高齢者の便宜を図るためなのか。高齢者は手足の筋肉も弱まりステップの高いバスの乗り降りだけでも大変だ。良い制度が出来ても利用することが出来ない。

行政と利用する側のすれ違いも多く効果も薄らいでしまいかねない。今後、車を利用できなくなる高齢者はますます増加し、この制度は重要になってくると思ふ。最初からすべて理想どおりには実現できなくても3年後には昇降介助者を、5年後にはフラットステップバス、10年後には高齢者のみでなく、エコ対策交通手段としても進めてほしいものだ。私の理想とするのは、停留所の概念も捨て、手を挙げてどこでも乗り降りでき、バスの中は、笑顔にあふれた楽しい社交場であってほしいと夢見ている。「創意と活力に満ちた地域バス」を期待します。

編集後記

この時節、自分の背中より大きなランドセルを誇らしげに背負って登校する新1年生を見かけます。子供たちの未来に、このふるさとをどんな形で残してあげられるのか私たちに与えられた大き

な課題です。思わず「頑張れ！」と声をかけたくなりました。

さて、3月定例会で「第1次南九州市総合計画」が示され、今後9年間の進むべき基本構想のもとに、新年度がスタートしました。

経済不況の波、隣国からの不穏な風をうけるなど、母船「日本丸」は順風満帆ではありません。時期はまさに「風薫る5月」、南九州丸は「官民一体」の帆を上げ、さわやかに、そしてゆるやかに、想像と活力に満ちたまちを目指し、進んで行きたいものです。

(山下つきみ)

▼広報編集委員会

- 委員長 森田 隆志
- 副委員長 峯苦 勝範
- 委員 竹迫 毅
- 委員 菊永 忠行
- 田畑浩一郎
- 山下つきみ

“議会を傍聴してみませんか”

次の議会は**6月16日**開会予定

手続き簡単!! 本館2階で住所・氏名などを書くだけ